

E1A 新名神高速道路 大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC間連絡調整会議(第 3 回)
議事概要

1. 開催日時

令和 6 年 12 月 24 日(火) 13:30 ～ 14:30

2. 出席者:

近畿地方整備局 道路部

近畿地方整備局 京都国道事務所

滋賀県 土木交通部

京都府 建設交通部

大津市 建設部

宇治田原町 建設事業部

城陽市 まちづくり活性部

西日本高速道路株式会社 関西支社 建設事業部

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大津事務所

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神京都事務所

3. 議事

(1)新名神高速道路(大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間)の概要

(2)新名神高速道路(大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間)の進捗状況と課題

(3)意見交換

4. 議事概要

(西日本高速道路(株)より説明)

○大津 JCT～城陽 JCT・IC 間の延長 25.1kmにおいて事業中。

当該区間は、土工区間が約 6 割、橋梁区間が約 3 割、トンネル区間が約 1 割である。滋賀県域では山間部及び多数の河川が通る急峻かつ狭隘な山岳地形の中、大規模な橋梁やトンネル工事を推進中。

また、京都府域では、2つのインターチェンジがあり、大規模な土工やトンネル工事を推進しているほか、平野部においては、国道の近接や鉄道等が複数交差している中、大規模な橋梁工事を推進中。

令和6年1月に全ての用地引渡しを受け、全線に渡って鋭意工事を進めている状況。

○信楽川橋では、硬岩の発現により時間を要していたP4橋脚について、令和6年2月に基礎杭の構築が完了し、橋脚工事に着手。現在、全ての橋脚工事が完了しており、上部工の工事を推進中。

○宇治田原IC部では、令和6年1月に用地の引渡しを受け、調査および工事に着手。

山砂利採取後の埋戻しが広範囲かつ軟弱な地盤であることから、有識者を含めた検討会により施工方法等の検討を実施。検討の結果、将来、安全な切土のり面とするため、宇治田原 IC 部については、地盤改良と切土工事を繰り返し行いながら本線の構築を行う計画。

事前調査により局所的に確認されていたコンクリート殻等が想定以上に発現していることに加え、粘性土を多く含んでいることから、石灰混合により改質したのち、分別する作業を行うなど、通常の切土工事に比べ非常に多くの時間を要している状況。

今後の工事において、コンクリート殻等の混入状況が不明であること、また、地中の混入物により、地盤改良の進捗に大きな差が生じたり、機械が故障するなどの事象も発生していることから、引き続き工事の進捗の確認が必要。

○城陽スマートIC部では、山砂利採取後の埋戻し箇所について、地盤改良範囲が大幅に増加したため、工事に時間を要している状況。

現在、地盤改良工事は、約7割程度進捗している状況。地盤改良が完了したのち、盛土工事を実施予定。

○以上のことから、引き続き工程精査を継続しつつ、工事の安全を最優先に1日も早い開通を目指します。

(意見交換)

○府県民も期待している中、4年以上遅れることは大変残念だが、工事については安全最優先で整備を進めていただきたい。

○周辺では新名神と関連した道路事業、まちづくり及び企業誘致等が進められている。今後も進捗状況等の情報共有及び事業調整を図っていただきたい。開通予定時期については、できるだけ早く提示いただきたい。

○今後工程精査を進める中で必要に応じ、本線の先行開通など高速道路の整備効果が早期発現する方策を検討いただきたい。